

経営者のための 法律相談 Q&A 〈その2〉

コンプライアンスについて～考え方の基本を理解しようの巻～

Q1 コンプライアンスって何？

A1 「土壌汚染」、「名ばかり店長」、「食品産地偽装」、「サービス残業」、「偽装請負」等々、企業活動の中で生じた問題は枚挙にいとまがありません。いったんこのような問題が生じると、民事・刑事上の責任を問われるだけではなく、せっかく築いてきた信用や評判を失うことにもなりかねません。取引先から取引停止を通告され、金融機関から借入を断られ、風評により売上が減少し、企業活動の継続を断念せざるを得なくなるケースもあります。

このような事態に陥ることなく企業活動を継続させなければならないと、近年、コンプライアンスが提唱され、脚光を浴びるようになりました。

コンプライアンスとは、一般的には、法令遵守、すなわち、「法律を守る」ことなのだという狭い意味に捉えられているようです。しかし、「法律を守る」のは当たり前の話ですし、法律を守りさえすれば、最初に挙げた問題が避けられるのか、新たに出てくる問題に対処できるのかについては、疑問が残るところではないでしょうか。そこで、コンプライアンスとは、「法律のみならず社会規範や企業倫理も守る」ことなのだ広い意味に捉える考え方が有力になっています。

いずれにせよ、コンプライアンスは、企業活動を継続させなければならないという重責を担っていらっしゃる経営者のみなさま方にとって、大変重要な取組課題であることは間違いありません。

Q2 法律に関する選択？

A2 コンプライアンスを「法律のみならず社会規範や企業倫理も守る」ことと広い意味に捉えるとき、考えなければならないテーマが3つあります。

1番目は、法律に関する選択、平たく言いますと、「会社は、お金儲けと法律が矛盾するとき、法律に従うべきか」というテーマです。例えば、商品売り込んである先の部長から、多額の袖の下を要求された場合、売り込みを諦めるべきかということです。

この問題については、もちろん、「法律に従うべき」という正解があります。現実的な課題としては、グレーゾーンにおける違法か合法かの見極め、業務内容のリーガルチェック、社内管理の仕組みづくりなどが挙げられます。

必要に応じて、弁護士や司法書士などの法律の専門家に相談されることをお勧めします。

Q3 経済的・社会的問題に関する選択？

A3 2番目は、平たく言いますと、「会社は、どこまで誠実さとか公正さとかが求められるのか」というテーマです。例えば、飲食店は、お客さまの食べ残しを、賄い食として食べて良いのか、次のお客さまに出して良いのかということです。あるいは、販売店は、同じ商品の値引き額をお客さまごとに変えて良いのか、うるさいお客さまに対してサービス内容を変えて良いのかということです。

この問題については、個人の道徳良心の問題と同じように、正解がありません。にもかかわらず、この問題が、時として表面化・事件化し、企業経営の存続に支障を与えることがある点、悩ましいといえます。誠実さや公正さはマニュアル化や管理されることに馴染まないため、この問題に対処する具体的な方策如何が、現実的な課題として挙げられます。

次の機会に、この問題に対処する具体的な方策について、一緒に考えてゆきたいと思います。

Q4 自己利益優先に関する選択？

A4 3番目は、平たく言いますと、「会社は、どこまで、他人の利益よりも自分の利益を優先すべきなのか」というテーマです。例えば、お金を儲けることは悪いことではありませんが、企業として、儲けたお金は社会に還元し貢献すべきではないかということです。

この問題については、株主や経営者の企業経営に対する考え方の根幹であり、正解がありません。しかし、CSR（企業の社会的責任）が提唱され、メセナ（企業の芸術文化支援活動）が進んでいる現状からすると、儲けたお金をどう社会に還元し貢献してゆくかが問われる時代も、近い将来、訪れるのかもしれません。

弁護士法人あすか 東広島事務所

TEL 493-7100 FAX 493-7101

弁護士 今田健太郎・福田浩・高橋浩嗣

本稿担当：
弁護士 福田浩

